

⑧

昭和二十一年七月
獨立混成旅司令部

23707

一三南西空襲戰鬪詳報

軍事極秘

AFS 03396
Cincpac-Cincpac
B-2725
OKINAWA 24 July

(2/10)

目次

- 一 敵機來襲前ノ狀況
- 二 天候氣象住民ノ狀態
- 三 敵機ノ種類機數裝備及攻專法ト我カ兵力
- 四 敵機來襲狀況ト我カ邀專戰ノ概況
- 五 國頭郡本部町渡久地附近於ケル彥丸遭難概況
- 六 將來參考トナルヘキ事項

一 敵機來襲前ノ狀況

敵ノ比島侵攻活潑化ニ伴ヒ南西諸島方面ニ對スル來襲モ亦頻繁トナルニ至レリ 敵呂宋島上陸以後一月十七日迄ニ三回ニ亘リ單機(B24 B29)宛侵入偵察ス

一七日四。軍ヨリノ通報依ヒ敵機動部隊三群ハ補助艦ヲ增強シテ南支那海及台灣東方海面ニ遊弋シアリテ間接的ニ呂宋方面ノ作戰ヲ支援センカ為テ在支米空軍ト策應シテ西諸島台灣支那沿岸ニ對シ我カ増援遮斷攻專ヲ再攻メ算大ナリ又マリヤナラシ島方面ノ別動部隊南西諸島台灣

マニラ方面ニ増援スルノ徴アリ

一月二十日二。五軍ヨリ左記情報ヲ得

「飛行機ノ偵察ニ依リ本日一七。高雄一七。度一六。哩北東ニ
進ム敵部隊アリ航空母艦存在不明」

近ク敵機ノ來襲ヲ予想シアリシガ月三日。八。一。八三。ノ

間B24 B29 軍機ニテ嘉手納小緑慶良間上空ヲ偵察ス

軍ノ敵機動部隊來攻ノ虞アルニ依リ南西諸島全地區ニ一。六。八

丙号戰備下令セリ一。五。宮古島ハグラマン機編隊ノ來襲

ヲ受ケ本島モ亦敵機ノ近接スルニヨリ一。一。空襲警報發令

旅団直チ乙号戰備ニ移行セリ一三。敵編隊十機慶

良間一三。二五機那霸ニ來襲セルモ一三。五敵機脱去セ

ルニ依リ空襲警報解除一七。警報解除セラレタリ

旅団六十二月上旬現防衛地ニ転移シ特ニ対空施設ノ構築ヲ

重点トシ築城実施中ニシテ概ネ所望ノ域ニ達シアリ

尚一部ノ兵力ハ旧防衛地區タル国頭郡本部町附近ニ在リテ

残置物件ノ追送ニ任シアリタリ

二天候氣象住民ノ状態

三天候氣象

雲量五 雲高二〇〇 視度二 風向東南ヨリ風
風速四米

斷雲敵ノ侵入及離脱ヲ容易ナラシメタルモ午前午後
共ニ我カ対空部隊ノ射撃及觀測ニ支障少シ

2 住民ノ狀況

一〇。空襲以後數次ノ経験ト軍官ノ指導ニヨリ民
心ノ動搖少ク又敵ニ冷靜ニ行動セリ

三 敵機ノ種類、機數、裝備及攻襲法ト我カ兵力

一 敵機ノ種類

米國第三十八機動部隊ナリヤ第五十八機動部隊ナリヤハ
不詳ナルモ「F6F」「TBF」「SBC」艦上戰鬥機及同
爆真機

二 機數

延約五五五機ニ達スルモ實數ハ一〇〇機内外ト判断ス
(機數ハ旅團直轄對空監視哨ヲ見セラル數)

3 裝備

機銃 一三七粒 七七粒
爆彈 三〇粒 一五〇粒
ロケット爆彈

225。虜敵祭ヲ散見

4. 素質

一。空襲時ニ比スルニ爆轟ノ技術ハ低下シタルヲ機銃掃射ノ命中度ハ概ネ良好ナリ

5. 攻轟法

一。三―四機編隊ヲ以テ攻轟目標上空ニ侵入シ高度一五〇米ヨリ一機宛急降下銃爆轟ヲ實施ス
攻轟ニ方リ單機宛急降下シ常ニ部ハ攻轟目標上空ヲ巡回シアリタルハ我カ対空火器砲ヲ設置、偵察及爆

轟效果ノ確認等ヲナセルモノト判断ス

二。攻轟ニ方リテハ断雲ヲ利用シ侵入及脱去ヲ行ヘリ

三。船舶ヲ対シテハ小型船ニ對シテハ機銃ヲ攻轟セリ

6. 我カ兵力

一。配備兵力

獨逸混成第四十四旅団司令部

獨逸混成第十五聯隊

第三步兵隊第三大隊

獨立速射砲第七大隊(中欠)

二二五。砲散霏ヲ散見

4. 素質

一。二。空襲時ニ比スレハ爆轟ノ技術ハ低下シタルモ機銃掃射ノ命中度ハ概ネ良好ナリ

5. 攻轟法

一。三。四機編隊ヲ以テ攻轟目標上空ニ侵入シ高度一五〇米ヨリ一機宛急降下銃爆轟ヲ實施ス

攻轟ニ方リ單機宛急降下シ常ニ部攻轟目標上空ヲ施回シアリタルハ我カ対空火器砲(設置)偵察及爆

轟效果ノ確認等ヲナセルモノト判断ス

口攻轟ニ方リテハ斷雲ヲ利用シ侵入及脱去ヲ行ヘリ

ハ船舶ニ対シテハ小型船ト雖モ反響執拗ニ攻轟セリ

6. 我カ兵力

ノ配備兵力

獨立混成第四十四旅団司令部

獨立混成第十五聯隊

第二步兵隊第三大隊

獨立速射砲第七大隊(中欠)

旅團砲兵隊
旅團工兵隊

海軍第十、十一、十五砲台

第二十四師團第二野戰病院(古久)

直接戰鬥七部隊

獨立混成第十五聯隊Ⅱ、MG一個分隊

同

第九中隊一個分隊

四敵機來襲狀況下我方激真戰鬥概況

二十三日。六三五海軍電波警戒機三機、依六與座岳基点(三三)

二十一日。天三五海軍電波警戒機二機六英座岳基点二三三

度九。料ノ地点ニ敵機編隊群(七目標)本島ニ向ヒ近接中
 ナル軍情報ヲ受クルト同時ニ軍空警報ヲ發令シ旅
 団八直チニ乙号戰備ニ移行シ敵機ノ來襲ニ備ヘタリ
 其ノ概況左表ノ如シ

波	波七第	波六第	波五第	波四第	波三第	波二第	波一第	波
時刻	1610 1840	1340 1545	1200 1300	1110 1200	0920 1030	0830 0915	0705 0810	時刻
機数	一〇 延	五〇 延	三〇 延	八〇 延	六五 延	八〇 延	一五〇 延	機数
攻	各飛行場爆轟	各飛行場爆轟 津堅島 平安山	小緑飛行場爆轟	北飛行場爆轟 汽瀬附近山原船銃轟 首里英那原附近 銃爆轟	各飛行場及村落 ヲ銃爆轟 津堅島爆轟	同右 那霸首里市街 汽瀬附近山原船銃轟	沖繩北中及小緑飛 行場爆轟	攻 轟 目標
摘		津堅島一ヶ所炎上 平安山製作用所四ヶ所炎上	小緑一ヶ所 炎上	四隻沈没セリ 炎上スルヲ望見ス	近部落一ヶ所炎上 〇九四。彦山丸大破炎上シ 若干ノ損害アリ	飛行場ノ滑走路及誘導路 ニ投擲セリ MG及lgヲ以テ邀撃シ 一機ヲ墜落セリ	飛行場附近ニ配置セラレ、 高射砲及高射機關等 ニ戦斗ヲ開始セリ	摘 要

五國頭郡本部町渡久地附近ニ於ケル彦山丸遭難概況

旅団、昨年十二月上旬中頭地區ニ転移シタルモ一部兵力ヲ殘

置シ戰鬥諸資材ヲ前送實施中ナリシガ一月二十日彦山丸

渡久地港ニ廻航スルヲ以テ別紙作命ニヨリ松井中尉指揮

ノ下ニ二十二日〇二〇ヨリ軍需品ヲ搭載シ實施シ天明ニ及ヘリ

〇七〇。空襲警報發令ト同時敵機四機來襲彦山丸

上空ヲ挽回間モテク先頭機ヨリ逐次急降下シ彦山丸ニ

對シ極メテ低空ヨリ銃撃ヲ加マルト共ニ爆彈ヲ投下セルモ

爆彈、船體ニ命中セズ兩側ニ落下ス。當時作業人員ニ

。名ハ交代時ニシテ兵員ノ大部ハ甲板上ニテ休憩シアリシガ
敵機ノ來襲ヲ知ルヤ船艙内ニ退避セルモ銃ヲ執拗ナル銃臺ヲ
受ケテ若干ノ死傷生セリ

敵機ノ伊豆島方向ニ去リタルヲ以テ搭載シ協力シアリシ船舶工兵第
二十三隊隊吉田少尉ハ大殺ニヲ以テ波止場ヲ奔シ本船救助ノ為
急行セリ 先ツ大祭ヘニ死傷者ヲ收容シ他ノ艇ニ船内残員ヲ
乗船セシメ陸岸ヘ返還セント離船スルマ再ヒ前四機來襲シ大
發ニ對シ至近距離ヨリ銃臺ヲ加ヘ先頭ノ舟艇ハ火災ヲ起シテ
航行不能トナリ逐次浸水シ沈没セリ 他ノ隻ハ敵彈ヲ蒙リ距

岸。米附近ニ於テ故障シ乗員ハ海中ニ飛込ミ瀬底島及浜
崎方向ヘ泳キタルモ既ニ戦死シ或ハ負傷シテ行動不能ノ者ハ
舟艇ト共ニ海没シ又海中ニ入りタル者ハ中重輕傷者ハ逐次陸岸
ニ到達シ得ス海没セルモノアリ 此ノ間敵機ハ執拗ナル銃臺ヲ
反復シ海中ニ浮遊セル者迄モ銃臺セリ 本船ハ渡久地港外ニ
退避セルモ銃臺焼夷彈ノ為遂ニ艙部ヨリ發火シ船艙ニ延
焼スルニ至リ渡久地沖合「リーフ」ニ坐礁セリ 陸上ニ在リシ者ハ
敵機來襲ノ間斷ヲ利用シ船舶工兵ト協同シ剗舟三隻以テ
海没者ノ救援ニ任シ部ヲ救出セリ 又剗舟ニ乗ル本船ニ至リ船内ヲ

搜索セルモ生存者ヲ発見スルニ至ラス

本戦斗ニ於テ戦死ニ重傷傷者ハヲ確認セルモ二十七名ハ生死不明ナルヲ以テ日没迄ニ沿岸海上ヲ搜索セル結果尚生死不明者十

六ヲ算セリ 爾右二十二日夜ヲ徹シ搜索続行二十三朝迄ニ浜崎附近ニ屍体ニヲ発見潜水作業ニ依リ午右死体四ヲ収容ス

尚海底ニ十数体ノ屍体アルヲ認メタルモ潮流潜水ヲ許サズヨ得ス 爾二十三朝迄ニ続行ス 二十三日昼夜作業セルモ発見ス

至ラス 二十四日^{午右}潮流ノ適時ヲ待テ潜水作業ヲ続行シ同日夕屍体一ヲ収容 二十五日屍体四ヲ収容 二十七日迄ニ搜索ヲ続行

セルモ効果ナシ

彦山丸遭難ニ依リ受ケタル我カ損害附表第一第三ノ如シ

大將來参考トナルヘキ事項

一 敵機動部隊來襲ニ対スル觀察

敵ハ我カ空軍ノ南方進出ノ中継基地タル南西諸島航空基

地ヲ執拗ニ攻撃シテ空海ヨリスル我カ攻撃ヲ封殺セント企圖シアルヘ

ク又徹底シテ小型船ヲモ攻撃セルハ本島ノ補給遮断ヨリ戦カ

弱体化ヲ図リ神繩進攻準備ヲ企圖セルモノ如シ

二 戦訓

1. 戰鬥司令所(指揮所)の位置

敵の砲爆轟ノ集中ヲ受ケサル制高点ニ指揮官ノ眼ヲ出
スハ從來ノ戰訓ニモ鑑ミ全般ノ狀況把握ノ為極メ有利ナリ
喜舍場北側△148ニ配置セル展望哨ヨリ中頭島尻全地域
ニ於ケル敵機ノ行動及我カ軍ノ狀況把握容易ナリ

口横穴式洞窟ノ構築

洞窟入口ヲ銃臺セラレ一時ニ十數名ノ死傷者ヲ出シタル例アリ(地方人)

入口ニ爆風除ケヲ施設シ或其ノ部枝ヲ飛行機ノ來襲

困難ナル方向ニ設ケ且偽裝ヲ施シ敵機行動間出入スルヲ
避ケ其ノ注目ヲ惹カサルヲ要ス

ハ偽陣地擬砲ノ價值

天願地區ニ施設セル偽陣地擬砲陣地ニ對シ敵ハ反復銃
轟ヲ行ヘリ敵ノ火力ヲ吸收分散セシムル為極メ有効ナリ

ニ着明ナル建造物ノ不利

現在迄ノ戰訓ニモアリシモ熱田東恩納高離島附近ノ製糖
工場及津賢島宿舍等ハ銃爆轟セラレタリ之カ種ノ利用ハ
勉メテ避ケルヲ要スヘク若シ利用セサルハカラサレ場合ハ偽裝ヲ

徹底セシムルヲ要ス

ホ必墜確信射專

MGノ銃ニ依リ高度 \sim 150米發射彈丸 \circ 發ヲ以テ敵機 \circ グラマン \circ 機ヲ專隊セリ 訓練ノ精到ト相俟ツテ必墜ニ確信射專 \circ 敵機ヲMGヲ以テ容易ニ墜シ得

彦山丸遭難ニ関シテ

1. 船舶ニ対スル警報傳達ヲ迅速ナラシムルヲ要ス

2. 搭載揚陸時ニ於テハ特ニ対空警戒及掩護ノ処置情報傳達ノ手段ヲ講シアルヲ要ス

3. 遭難者ニシテ海中ニ飛ヒ込ミタル者中沿岸ニ到達セント力泳シ遂ニ力尽キ溺死セル者多数アリ又泳テ知ラサル兵ニシテ浮游物ニ身ヲ托シ漂流シアリテ救助セラレタル者アリ 斯クノ如キ場合ハ沉着冷靜海上ニ浮揚シ救助ヲ待ツ 著意ヲ必要トス

4. 搭載揚陸 \circ 夜間ヲ利用シテ行ヒ特ニ黎明直後 \circ 之ヲ避クルヲ要ス

5. 本船搭載中ト雖モ常ニ浮胴衣装着ノ下ニ作業ヲ実施

要ス

ト山原船空襲時ノ處置

予メ船体ニ所要ノ小孔ヲ穿テ買テ空襲ニ方リテハ自ラ
 海水セシメ被害ヲ避ケルヲ可トセン

附表第一

戰鬥詳報第一號附表

昭和三年一月二十日 獨支混成第四十四旅團死傷表

團體號	區分	戰鬥參加人員		死		傷		死傷不明
		將校 以下	准士官 馬匹	將校 以下	准士官 馬匹	將校 以下	准士官 馬匹	
獨支混成第四十四旅團司令部		一三	三六	一三		九		大
獨支混成第十五隊		二六	八五					
混成旅第二步兵隊第三大隊		二〇	五五			一		
混成旅第四步兵隊		一六	六三					
混成旅第二步兵隊		四	一八					
混成旅工兵隊		四	一八					
獨支速射砲第七大隊(一中欠)		九	一〇					
特設教導備第二四中队		二	四					
第十四師團第三野戰病院(詳)		三	三四					
總計		三九	三五	三一		一〇		大

備考

一旅團司令部人員中一七五名(將校二下士官一七三)ハ附録第一ニ依ル後久地ニ於ケル者九
 搭載作業ニ從事セルモノニシテ死傷致シ生死不明者モ亦全式ニ於ケル損耗ナリ

附表第二

戰鬥詳報第一號附表

昭和十一年十一月廿九日 獨立混成第五旅隊第四十四旅團武器彈藥損耗表

計	月	日	獨立混成第五旅隊 第四十四旅團	種類			彈	費	損
				區	分	種			
50	50		九九式輕機槍			彈			
95		75	九二式重機槍			彈			

附表第三

獨立混成第五旅隊第四十四旅團武器彈藥損耗表

品名	種類	備註	數	價	備註
燒	日	燐	10	100	
粉	油	燐	5	50	
肉	油	燐	5	50	
豆	麵	燐	5	50	
削	節	燐	5	50	
切	布	燐	5	50	
極	干	燐	5	50	
長	漬	燐	5	50	
醬	油	燐	5	50	
清	酒	燐	5	50	
金	酒	燐	5	50	
酒	酒	燐	5	50	

食	替	岩	丸	凍	干	干	干	干	干	干	干	干	干	干	干	干	干	干	干
酢	在	遊	麵	腐	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜

立	際	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

一五	一二	四〇	一六	一四	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

一五	一〇	八	八	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

七	九	二〇	三	〇	四	五	五	四	三	四	三	二	七	五	二	七	五	二	七	五
---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

陸
軍

乾	粉	大	小	大	綠	食	第	干	干	長	压	晒	サ
心	味	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五

〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

一五	一五	六	四	四	四	四	四	五	一	五	五	五	五
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

七二	六	六	六	六	六	六	六	八	一	八	五	五	五
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

五	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

陸
軍

被中敷硝子	奉公袋	飯金用組	水筒用組	背囊用組	フウビ金	洋釘ニ耗	洋釘一耗	縫針一耗	外金用ホウ	衣用ホウ	防火袋	甲紐系
個	個	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米

一七〇	一〇	五七	一〇	七〇	三〇	三〇	一三五	五五	二〇	五〇	五〇	二八四
-----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	-----

摘要

月夜敷	蚊帳	那科紙	菊紙墨章	襟章用墨章	芳穂打組	芳穂織組	神用芳穂打組	芳穂丸打組	差環	呼気辨	綿組	被中敷	品目
個	米	米	個	個	米	米	米	米	個	米	米	個	個

一〇	四一	七〇	一〇	五〇	一五〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----

摘要

白本綿糸	芳穂木綿糸	ドブ多芳穂	メリケン針	綿ニ密針	木綿厨本	芳穂金布	天竺木綿洋晒	厚織木綿	防火芳穂	晒木綿	防火芳穂布	芳穂雲刺	鼓	蒲鉾
束	束	束	束	束	束	束	束	束	束	束	束	束	束	束

一六〇	一五〇	五〇	五〇	一〇	七九〇	二六四	九	三〇五	一〇五	二五五	二五五	五〇	五〇	五〇
-----	-----	----	----	----	-----	-----	---	-----	-----	-----	-----	----	----	----

ミシシ糸黄	カタン糸黄	カタン糸黄	カタン糸白	カタン糸白	ミシン糸赤	ミシン糸赤	ミシン糸白	ミシン糸白	青絹糸	白絹糸	白絹糸	白絹糸	白絹糸	黒木綿糸
束	束	束	束	束	束	束	束	束	束	束	束	束	束	束

六二	五〇	五〇	五〇	三三	二五	一六	三	五〇	二五	五〇	二〇	二〇	三〇	三〇
----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----

平	平	薪	飯	飯	菜	雨	水	葦	英	寫	定
全用蓋	全	包	運	包	包	覆	渡	台	座	口	金
個	個	丁	布	布	布	布	布	台	個	本	個
五	一	一	六	六	六	六	一	一	八	三	三
備	考	考	考	考	考	考	考	考	考	考	考
白	白	騰	特	熟	雨	瀨	大	小	三	三	三
轉	轉	寫	殊	地	覆	戶	櫃	櫃	在	在	在
本	本	版	消	用	火	火	尺	尺	洋	洋	洋
本	本	台	火	大	火	火	尺	尺	尺	尺	尺
八	八	三	二	八	四	一	一	一	一	一	一
備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備
考	考	考	考	考	考	考	考	考	考	考	考

白	取	膠
目	取	寫
單	取	寫
教	取	寫
量	取	寫
備	取	寫
考	取	寫

取

練習用具

品目	数量	備考
銃剣術用面	六	
桐	六	
肩	六	
左薩平	六	
桐葉圖	六	

附録第一

獨混四旅作命第九號

獨混成第四十四旅團命令

一ニ一ハ。〇。〇

- 一 旅團ハ彦山丸ヲ以テ残置物件ヲ新守備地區ニ輸送セントス
- 二 獨混成第十五聯隊長ハ残置物件輸送ヲ為旧守備地區殘置
兵カヲ渡久地ニ差出シ松井中尉ヲ指揮ヲ受ケシムヘシ
- 三 松井中尉ハ前項兵力及成隊作業隊ヲ併セ指揮シ自頭地區殘置
物件ヲ嘉手納ニ輸送スヘシ
- 四 渡久地ニ於ケル搭載ニ関シテハ船舶兵第六大聯隊ノ援助ヲ受ケヘシ
- 五 彦山丸ノ運航ニ関シテハ軍參謀ノ指示ニ依ルヘシ

旅團長 鈴木少將

下 達 法 要旨電話后印刷交付

配 賦 先 15G15 55G15 44A 44P 77As FL 第二作業隊

報告(通報)先 32A 24D 船舶司 国支 26SP

附録第二

獨混四旅作命第一〇號

獨混四旅成第四十四旅團命令

一三二一七〇頁

- 一 本朝來敵之空襲狀況ハ各部隊ノ知ル如ク吾山丸ハ渡久地ニ於テ損傷ヲ受ケタリ 敵機動部隊ハ本島ニ近接シアルモノハ如シ
- 二 旅團ハ本夜ノ警戒ヲ至嚴ニシテ共ニ吾山丸遭襲者救助ノ為ニ部ノ兵力ヲ現地ニ派遣セントス
- 三 各地區隊ハ本夜對空待ニ海上監視ヲ至嚴ナラシムルト共ニ明日ノ敵機ノ攻襲ヲ予想シ對空処置ニ萬遺憾ナカラシムヘシ
- 四 司令部及獨混成第十五隊隊長ハ速ニ本部ノ指示機関ヲ渡久地ニ派遣スヘシ 自動貨車一ヲ配當ス

旅團長 鈴木少將

下達 先法 先

要旨電語印刷交付 報指揮下一報 三二軍

一三三 南四空被 如手あ如

一三二 一三三

他三連隊中由本團員

一三二